

追悼のことば

本日ここ沖縄県 米須の丘東京の塔に於いて令和八年度東京都南方地域戦没者追悼式が挙行され東京都遺族連合会代表として追悼の言葉を述べる機会をいただきまして 関係者の皆様方に御礼申し上げます

父が召集されたのは昭和十九年四月で二十九歳のときです

父は建設会社のルームインテリアの技術者で父と母私弟家族四人中野区で地域の方々に恵まれて幸せな日々を過ごしていました

弟が生まれて半年後 家族四人幸せな生活を送っていたところに赤紙が届いたと母はいつも悲しみを込めて話していました

私は昭和十六年七月に生まれ父を戦場に見送った時は満二歳九カ月でした

とても優しい父で近くの新井薬師に弟を抱っこし私の手を引いて遊びに連れて行ってくれた事や家族四人で楽しく遊んだことを今も思い出します

住んでいた家の近くに陸軍中野学校があり毎日高級車が出入りしていたそうです

終戦前に住まい周辺は強制疎開となり 母と私と弟は山梨県の母の実家へ疎開し 祖母や母の兄弟達の御家族と近隣で生活し大変お世話になった事を今でも感謝しています

終戦になったのに 父は帰らず父の戦死が知らされたのは昭和二十二年の終わる頃でした

父は鉄道第四連隊に所属し 中国に赴き半年も過ぎない十九年十月にフィリピンに転属し増援部隊搭載のマモロ五船団に便乗してマニラに向かう途中に敵潜水艦の攻撃を受け次々と被雷沈没 戦没されたと知らされています

戸籍簿には昭和十九年十月二十六日 バリタン海峡に於いて戦死と記されています

墓に遺骨は無く戒名は

慈照院忠鑑周道居士

母は短歌で父への想いを詠んでいます

バリタンの海に

散りにし益荒男の

遺骨は悲し

ひとにぎりの砂

母は住んでいた山梨県で熱心に遺族会に参加し 沖縄県での山梨県戦没者追悼式に初めて参加した昭和四十四年頃はパスポートが必要でした

私は手続きを手伝い羽田での送迎も行いました

沖縄での山梨県戦没者追悼式に参加出来なかった遺族会の皆さんへの沖縄土産は殆どアメリカの珍しい品が沢山で私も驚いた事が思い出されます

今年夏のニュースで台湾南部の海岸に於いて日本政府や関係機関と個人で日本人戦没者の遺骨埋葬の調査を続けてこられた日本人日本語教師の舘さん達が五十年ぶりに日本人の遺骨発掘調査を始めたとの報道があり その後遺骨は見つからなかった事も報じられました

その時取材した民放テレビがそれに関連して遺骨無きお墓に墓参りをする私の様子を放映しました

テレビ取材の事はお墓をまもっている亡き弟の妻と私の息子以外には知らせて無かったのですが 山梨でお世話になった友人や杉並のボランティアや体操仲間からテレビ放映を観たと連絡を貰いマスコミの影響を感じました

今年の大きなニュースとしてノーベル平和賞はICC「国際刑事裁判所」元裁判官のナビ・ピレイ氏に授与決定と報じられました

ICCの赤根所長らが大国から制裁を課されている中 平和を願う多くの人々にピレイ氏のノーベル平和賞授与は希望の灯りとなります

戦争の悲惨を経験した戦争遺児として 地球上から争いが無くなり人々が平和を共存して暮らしていけることを常に願っています

国の繁栄と妻子 家族の安寧を祈りながら こんにちの日本を夢見て 尊い御身を捧げた御英霊の御冥福をお祈りし 御遺族 参列者関係の皆様方のご健康とご多幸をお祈り致しまして 追悼のことばといたします

令和八年十月二十三日

東京都遺族連合会 遺族代表

船橋 美奈子